

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

| | | |
|---|-------------|---|
| 団体名 | 和 | 太陽地球系物理学科学委員会 |
| | 英 | Scientific Committee on Solar-Terrestrial Physics (略称 SCOSTEP) |
| | 団体 HP (URL) | https://scostep.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 ○有 ・ 無) |
| 国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等) | | 約 11 年の周期で変動している太陽活動において、現在の第 24 太陽周期は活動度がそれ以前に比べてかなり低くなっており、数十年から数百年スケールの長期的に見て、太陽活動が非常に低い時期に入ったとされている。この状況が地球の気候や地球システム変動へ与える影響は、当該分野の研究者だけでなく広く国民からも注目されてきている。これに伴い、太陽の活動自身や地球の周辺の宇宙空間である磁気圏・電離圏の研究も、近年の我が国の科学衛星の成果を含めて活気を帯びているとともに、太陽からのエネルギーで駆動される大気の変動と地球大気内部に起因する大気の変動の関係といった「大気上下結合」の研究も、近年の精密観測と高性能モデリングで大きく発展しつつある。 |
| 政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について | | 長時間スケールの太陽活動の変動が気候に与える影響、また太陽や銀河での爆発現象による地球周辺の宇宙空間や地球大気の応答は、宇宙利用や地球環境変動予測に関連した政策決定上、重要な事項となりうる。地球環境の自然起源、人為起源のトレンドは SCOSTEP の重要テーマの一つになっており、二酸化炭素の急激な増加とともにフロン排出規制の効果など近年の大気組成の変動の気象・気候への影響が明らかになってきている。 |
| 日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて | | SCOSTEP が主導する国際協同観測研究計画は、各国の提案を受けて、科学委員会 (ワーキンググループ)、理事会、総会の議を通して決定される。それらの計画の中間評価と総括のために我が国は節目に国際シンポジウム (1979 年 IMS シンポジウム (東京)、1983 年 MAP シンポジウム (京都)、1994 年 STEP シンポジウム (仙台)、2000 年 S-RAMP シンポジウム (札幌)、2007 年 CAUSES シンポジウム (京都)、2013 年 CAUSES-II シンポジウム (名古屋)) を開催した。最近では、5 年毎に国際協同観測研究プログラムを運用しており、2009-2013 年の CAUSES-II プログラムでは京大・津田教授が co-leader として主導し、成功に導いた。現在は、2014-2018 年の VarSITI プログラムの co-leader を名大・塩川教授が務めており、順調に成果が上がっている。過去にも多くのプログラムを日本が主導している。その間、我が国が主導した各種科学衛星 (あけぼの、ジオテイ |

様式第 2 (第12条関係)

| | |
|--|--|
| | ル、れいめい、ひので、あらせ等) や、大型地上観測機器 (MUレーダー、EISCAT レーダーへの参加、地上多点観測網など) により、太陽・地球電磁圏・中層大気の構造とダイナミクスなど、顕著な成果をあげるにいたっている。 |
| 加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて | 太陽地球系物理学の分野では、サイエンス面での優位性だけでなく、研究集会や国際協同事業におけるイニシアティブの面においても日本の存在感が非常に大きい。1957年に実施された IGY から継続して IMS、MAP、STEP、PSMOS/EPIC/S-RAMP、CAWSES、CAWSES-II、VarSITI といった国際協同観測研究計画では、日本が積極的に参加し、かつ主導的な役割を果たしてきている。また、先端的観測プロジェクトや各種スクール、招聘・派遣事業などを通じて国内外の若手研究者の育成に効果があった。ICSU (ISC) の中でも日本の貢献が特に顕著な委員会であり、わが国のステータス向上に資するところは大きい。 |
| その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など) | SCOSTEP は、若手育成、発展途上国支援に特に力をいれており、活動支援の中でも Capacity Building への配分が大きい。途上国の若手を著名研究機関に派遣する Visiting Scholar プログラムなど特徴ある制度を導入している。また、役員等のジェンダーバランスにも配慮を行っている。 |

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

| | |
|-----------------------------------|--|
| 総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め) | 2013年に CAWSES-II シンポジウムを 300 人超の規模で開催したため、近々に大規模な総会などの日本での開催の予定はない。理事会等は他の組織の会合の予定にあわせて開催されることが多いため、今後開催される可能性もある。 |
| 日本人の役員立候補等の予定について | 当面は、VarSITI 共同議長の塩川、理事の中村が役員を務める。2019年7月の総会で会長他役員の改選があり、塩川が会長に選出された。また、中村が8人の任期を終えて退任し、代わりに三好が理事となった。科学領域代表(SDR)については改選時に若手・中堅を中心に推薦を行う。 |
| 現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて | 5年毎の国際協同観測研究計画の立案には毎回わが国が貢献をしており、現行の VarSITI プログラムでも我が国の提案が強く反映されている。2019年から開始される次のプログラムを策定するための科学フォーラムは 2018年11月に北京、2019年2月にスイスで開催される予定であるが、これらのフォーラムには日本の研究者が参加し、日本からの提言をインプットしていく予定である。 |

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第 11 条 活動報告)

| | | |
|------------------|--------|--|
| 総会・ 理事 会・各 | 総会開催状況 | 科学総会 (STP シンポジウム) 2018年 (開催地: 加・カルガリー)、2014年 (開催地: 中国・西安) 代表者会議 (総会) |
|------------------|--------|--|

様式第2 (第12条関係)

| | | |
|----------------------------------|--|--|
| 種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの) | | 2019年(開催地:カナダ・モントリオール)、2015年(開催地:チェコ・プラハ)、2014年(開催地:中国・西安)、2013年(開催地:日・名古屋) |
| | 理事会・役員会等開催状況 | 理事会 2018年(開催地:オーストリア・ウィーン)、2017年(開催地:オーストリア・ウィーン)、2016年(開催地:加・トロント)、2015年(開催地:チェコ・プラハ)、2014年(開催地:中国・西安)、2014年(開催地:チェコ・プラハ)、2013年(開催地:日・名古屋)、2013年(開催地:スイス・ベルン) |
| | 各種委員会開催状況 | 将来検討委員会 2019年(開催地:スイス・ベルン(予定))、2018年(開催地:中国・北京)、2013年(開催地:スイス・ベルン) |
| | 研究集会・会議等開催状況 | CAWSES-IIプログラムやVarSITIプログラムに関連し、毎年数件から15件程度の国際研究集会や、年間数件の大学院生・若手研究者向けの国際スクールを、SCOSTEP経費で支援・開催している。代表的なものを以下に示す。 VarSITI最終シンポジウム 2019年(開催地:ブルガリア(予定))、第2回VarSITI総合シンポジウム 2017年(開催地:ロシア・イルクーツク)、第1回VarSITI総合シンポジウム 2016年(開催地:ブルガリア・アルベナ)、SCOSTEP-WDSワークショップ 2015年(開催地:日本・東京)、ISELLI国際スクール 2015、2017年(開催地:ナイジェリア・アブジャ及びオタ)、ISELION国際スクール 2015、2018年(開催地:インドネシア・バンドン)、国際CAWSES-IIシンポジウム 2013年(開催地:日本・名古屋) |
| 上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定 | 2019年、代表者会議(総会)(開催地:カナダ・モントリオール(予定))、5名程度 2019年、VarSITI最終シンポジウム(開催地:ブルガリア(予定))、3名程度 2019年、将来検討委員会(開催地:スイス・ベルン(予定))、1-2名 2018年、科学総会(STP-14シンポジウム)(トロント)、8名(うち代表派遣:塩川和夫) 2018年、理事会(開催地:オーストリア・ウィーン)、1名 2017年、第2回VarSITI総合シンポジウム(イルクーツク)、5名 2017年、理事会(開催地:オーストリア・ウィーン)、1名(代表派遣:中村卓司) 2016年、第1回VarSITI総合シンポジウム(アルベナ)、6名(うち代表派遣:塩川和夫) 2016年、理事会(開催地:加・トロント)、1名 2015年、代表者会議・理事会(プラハ)、2名(うち代表派遣:中村卓司) 2015年、ISELLI国際スクール(アブジャ)、3名 | |

様式第2 (第12条関係)

| | | | | | |
|--|-------|--|-------------|------------|--------------|
| | | 2015年、SCOSTEP-WDS ワークショップ (開催地：日本・東京)、40名 2015年、ISELION 国際スクール (バンドン)、3名 2014年、科学総会 (STP-13 シンポジウム) (西安)、7名 (うち代表派遣：塩川和夫) 2014年、理事会 (西安)、3名 (うち代表派遣：中村卓司) 2013年、国際 CAWSES-II シンポジウム (名古屋)、180名 2014年、理事会 (プラハ)、2名 2013年、将来検討委員会 (ベルン)、4名 (うち代表派遣：中村卓司) | | | |
| 国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去5年) | | 役職名 | 役職就任期間 | 氏名 | 会員、連携会員の別 |
| | | 会長 | 2019 ~ | 塩川和夫 | (24期) 会員・○連携 |
| | | 理事 (Bureau) | 2019 ~ | 三好由純 | (期) 会員・連携 |
| | | VarSITI 共同議長 | 2014 ~ 2018 | 塩川和夫 | (24期) 会員・○連携 |
| | | 理事 (Bureau) | 2011 ~ 2019 | 中村卓司 | (24期) 会員・○連携 |
| | | CAWSES-II 共同議長 | 2011 ~ 2013 | 津田敏隆 | (24期) 会員・○連携 |
| | | 科学領域代表 (SDR) | 2011~ | 花岡庸一郎 | (期) 会員・連携 |
| | | 〃 | 2011~ | 片岡龍峰 | (期) 会員・連携 |
| | | 〃 | 2011~ | 坂尾太郎 | (期) 会員・連携 |
| | | 〃 | 2015~ | 高橋幸弘 | (期) 会員・連携 |
| | | 〃 | 2015~ | 篠原 育 | (期) 会員・連携 |
| | | 〃 | 2015~ | Huixin Liu | (期) 会員・連携 |
| 出版物 | 1 定期的 | SCOSTEP Annual Report (年1回) VarSITI newsletter (年4回) | | | |
| | 2 不定期 | SCOSTEP Newsletter (年2回程度) Comic Books in more than nine different languages | | | |
| 活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 Annual Report: http://www.yorku.ca/scostep/?page_id=323 Newsletter: http://www.yorku.ca/scostep/?page_id=135 | | | | | |

様式第2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

| | | |
|-----------------------|---------|--|
| | 委員会名 | 地球惑星科学委員会・地球惑星科学国際連携分科会・SCOSTEP-STPP 小委員会 |
| | 委員長名 | 塩川 和夫 |
| 国内委員会 (内規4条第3号) | 当期の活動状況 | <p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <p>第1回 平成30年2月13日 14時30分—16時 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長/副委員長/幹事の決定について ・VarSITIプログラム(2014-2018)終了後の次期 SCOSTEPプログラムの策定に関する日本側の対応について <p>第2回 平成30年5月20日 12時30分—13時30分 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期 SCOSTEPプログラムの策定に関する日本側の対応について ・ネットワーク観測やキャパシティ・ビルディングについて <p>第3回 平成30年11月26日 12時40分—13時10分 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期 SCOSTEPプログラムの策定と日本の貢献の可能性について <p>第4回 令和元年5月26日 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次期 SCOSTEPプログラムの策定情報と日本の貢献の可能性について ・ISWI活動など STPP 関連活動に関する情報交換 <p>第5回 令和元年10月25日 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SCOSTEPの新体制と第1回 Bureau会議の報告 ・SCOSTEP-STPP小委員会の委員の追加の提案 ・ISWI Workshop報告 ・ISES、ICAO等宇宙天気関連国際組織現状報告 <p>第6回 令和2年5月29日 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SCOSTEPの第2回 Bureau会議の報告 ・SCOSTEP/PRESTOの活動状況の報告 <p>第7回 令和2年8月17日 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第24期の総括と第25期への引継ぎ事項について |
| 術団体の要件関 内規第3 (国際学) | | <p>国際学術交流を目的とする非政府かつ非営利的団体である</p> <p>○ 1. 該当する 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる定款・規程等の添付又はURLを記載 (http://www.yorku.ca/scostep/?page_id=14)</p> |
| | | <p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か)</p> |

様式第 2 (第12条関係)

| | |
|---|---|
| <p>○ 1. 該当する 2. 該当しない</p> <p>※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.yorku.ca/scostep/?page_id=14)</p> | |
| <p>下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印)</p> <p>ア 個々の学術の専門分野における統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>○イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p> | |
| <p>10 ヶ国を超える各国代表会員が加入している</p> <p>○ 1. 該当する 2. 該当しない</p> | |
| <p>加入国数及び 主要な各国代 表会員を 10 記載</p> | <p>(32 ヶ国)</p> |
| | <p>・ 各国代表会員名 / 国名</p> <p>National Academy of Sciences, USA</p> <p>Russian Academy of Science, Russia</p> <p>Australian Academy of Sciences</p> <p>Chinese Society of Space Research, China</p> <p>CNES & COFUSI, France</p> <p>German Research Organization, Germany</p> <p>IScience and Technology Facility Council, UK</p> <p>Indian National Science Academy, India</p> <p>Royal Academy of Sciences, Sweden</p> <p>Norwegian Space Centre, Norway</p> |